

2020年子 新年のご挨拶

タイでの勤務を始めるに際してのご挨拶

日本国特命全権大使
梨田和也

あけましておめでとございます。
日本人会員及びご家族の皆様、どうぞよろしくお願
い申し上げます。

私は、先月着任したばかりですので、この場を借りて
少々自己紹介をさせていただきます。

私が最初にタイを訪れたのは1986年、友人とのバ
ンコク、チェンマイへの観光旅行です。以来、タイはこ
れまでの外務省勤務の中で最も数多く訪れた国となりま
した。

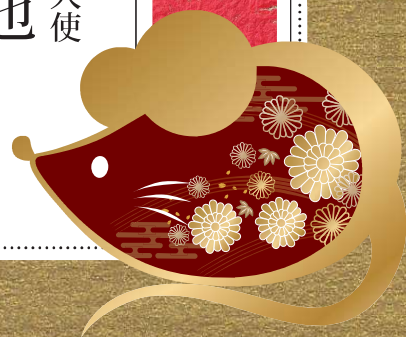
この数年間においても、ASEANと南アジアを所管
する南部アジア部長として、また、対外援助(ODA)
を担当する国際協力局長として、幾度となく出張しまし
た。菅官房長官とソムキット副首
相が議長を務める日タイハイレベ
ル合同委員会にもすべて出席して
参りました。
アジアの活力とアフリカの潜在性
を結びつけ、世界の平和と繁栄を推
進する「自由で開かれたインド太平
洋(FOIP)」構想は日本外交の
基軸です。 局部長としての4年間、

このFOIPを各国に浸透させ、具体的な協力案件を作
ることが私の最優先の仕事でした。その中でアセアン、
特にタイは最重要国の一つです。「連結性」や「人造り」
をキーワードにメコン全体、さらには南アジアとのつな
がりを念頭に置いて、日本として何ができるか、何をす
べきかと考えて参りました。この先大使としても、日本
人会の皆様のお知恵とご経験を拝借しながら、日本とし
ての貢献を引き続き考えていきたいと思えます。

今年はいよいよ東京オリンピック、パラリンピック
が開催されます。オリンピックを契機にサッカーなど
を始めとする日本とタイとのスポーツ交流が、経済・
人的交流などの分野と相乗して、一層深まることを期
待します。

今後、皆様のタイにおける様々な活動をお手伝いさせ
ていただくことにより、日本とタイの関係を一層深めていく
ために力を尽くしていきたいと存じます。私はこれまで
「アンテナは高く、敷居は低く」をモットーに仕事をし
て参りました。開かれた大使館として、務めて参りたい
と思えます。

本年が皆様にとって、実りある年となることを祈念し
つつご挨拶とさせていただきます。



日タイの新しい時代に新たな一歩

タイ国日本人会会長
島田 厚

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私にとりましては、日本人会会長に就任して4度目を迎える新年となりますが、また新たな気持ちで、会員の皆様と日本人会の様々な活動を通じて相互の親睦と日タイ交流活動を昨年にも増して行っていききたいと思えます。

昨年は日本・タイ国双方にとって変化の年となりました。日本では「令和」の時代となり、新天皇の即位式が執り行われ、タイでは新国王陛下の戴冠式が行われ、日タイの新しい時代の幕開けとなりました。

創立107周年を迎えた日本人会も、次の100年に向けた一歩を踏み出すべく様々な改革を行ってまいりました。1968年より半世紀にわたり発行してきたクルンテープ誌は、季刊誌として生まれ変わり、時代にあわせたよりタイムリーな情報発信を行うべく、ウェブサイトをリニューアルし、ソーシャルメディアを活用した総合的な発信に転換してまいりました。



1972年から続く日本人会恒例のチャリティーバザーは、新しい取り組みとして、メディアとの共催による事前告知の強化、チャリティーくじやチャリティーオークションなどの導入、また入場料を全員無料としたことで、より多くの日本人・タイ人の方々に楽しんでいただけたと感じております。現金・商品寄付の総額も120万バツ

を超え、6年振りに寄付額を更新することができました。皆様のご厚意に感謝すると共に、広くタイ社会へ還元できるように、寄付先も公募を開始しました。

昨年度より企画推進部を新設し、賛助会員企業様とのコラボレーション企画や会員様のサービス増強策を次々と施行することによって、企業会員様も昨年より20社以上も増え580社となり、個人会員様の入会も昨年を超える実績で推移しており、少しずつですが改革の芽が開かれようとしているのを感じています。

本年は、日本ではオリンピック・パラリンピックを迎え、より多くの外国の方が日本を訪れ、日本が世界へ発信される年となるかと思えます。海外に住む日本人として、我々ひとりひとりが日本のアンバサダーとして、文化・スポーツ交流に励み、両国の新しい時代を創り上げていきたいと思っております。日本人会にとっては、理事選挙の年となりますが、引き続き、日本人会の改革を進めてより存在を期待される団体であり続けたいと思っております。

最後となりましたが、今年「庚子(かのえね)」の年とのこと。「庚」は「更る(かわる)」様子を意味し、前年までのものから不要な価値観をそぎ落とし、新しい環境へ体制を整える年を示しているそうです。そして「子」は十二支の始まりであり、万物が新たに芽生えて、いろいろな方向に育ち始める年です。過去から引き継ぐべきものを維持しつつ、新たな一歩を踏み出してみたいと思います。

今年一年が、皆様方と日タイ両国にとりまして良い年となることを祈念しつつ、私の新年の挨拶とさせていただきます。